

## 平成29年度 浜竹保育園事業報告

### 1. 概要

#### ①運営報告

- 大田区は引き続き待機児解消対策として新設認可園や小規模型保育園、定期利用施設など14の施設増をしました。それでも当園の育児休業保育士4名は途中復帰を希望していましたが、入所できない状況です。また近隣園では保育士確保が出来ず、苦慮しているという話も多く聞かれます。
- 29年度は、リーダー層4人が複数育児休業取得となりましたが、経験5年～9年の中堅層をリーダーとし次期リーダー育成をめざしました。それぞれが行事等責任を持つことにより意欲的な取り組みが見られ大きく成長しました。
- 28年度より東京都が実施していた指導検査を区に権限委譲され、29年度は区内園長会において保育記録の様式等も見直されましたが、事務軽減にはならず逆に保育事務量が増えました。
- 平成30年度からの保育所保育指針改定に向け、29年度は準備期間として全職員で保育指針改定の背景や変更点について勉強会をしましたが、まだ十分理解するに至っていません。引き続き勉強会を行っていきます。
- 28年4月内閣府通知の「事故防止及び事故発生時の対応」ガイドラインと「大田区版」の扱い方について看護師とリーダー層で確認を進めていますが、全員で確認と共通理解するまでに至っていません。
- 要支援児への対応も含め、「子どもの人権と最善の利益」について外部講師による勉強会を重ねていくことにより指導計画や振り返りに反映し日々の関わり方も変わってきました。一部の職員にまだ課題があります。

②定員 140名（大田区との協定によります。） 3月末137名在籍でした。

\*緊急一時保育 1人 保育日数7日

③事業日数 326日（12月29日～1月3日までは大田区の規定により休園します。）

④開園時間 月曜日～土曜日 7時15分から20時15分

休日 8時30分から17時

\*休日保育実績 32日 延べ 33人

⑤保育時間（月曜日～土曜日）

早朝保育 7時15分から 8時45分

通常保育 8時45分から18時15分

延長保育 18時15分から20時15分

- ⑥職員数 園長1名、主任1名、保育士27名（途中退職者2名、育児休者4名うち1名12月復帰、他3名は預け先がなく育児休業を3月末まで延期する。）、  
栄養士1名、調理員4名、  
看護師1名（2月中旬より病欠、3月5日より非常勤看護師対応となる）  
非常勤保育士4名（うち週30時間未満2人）、パート（保育補助員）3名、  
嘱託医（大田区の指定による）内科医1名、歯科医1名

## 2. 保育運営

### ①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、学び合う子ども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

### ②保育方針

- 子どもたちが生き生きと生活・活動できる環境を整え自己を十分発揮し人として『生きる力』をはぐくむ。
- 保護者との信頼関係を築き、安心して預けられる保育の場を提供する。
- 地域における子育て支援のため、保育に関する相談や助言の役割を果たす。

### ③保育目標

1. 心身共に、健康な子
2. 友だちと助け合える子
3. 失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジできる子
4. 優しさのある子

### ④クラス編成及び職員配置

0歳児	かめ組	17名	保育士6名
1歳児	かに組	21名	保育士5名
2歳児	ペンぎん組	24名	保育士4名
3歳児	いるか組	24名	保育士2名（入退園で入れ替えが多かった）
4歳児	とびうお組	26名	保育士2名
5歳児	くじら組	25名	保育士2名
・乳児フリー・幼児フリー		保育士2名（9月より1名0歳児付）	
（園児定員 140名うち3月末3名欠員）（保育士 22名）			
主任保育士		1名	
短時間保育補助		4名（非常勤保育士 有資格）	
早朝保育補助		2名（パートタイマー）	

## ⑤保育内容

- 各年齢保育計画作成の際は、職員間で話し合い作成した資料「活動の目安」を元に基礎能力についてもクラスで確認しながら進めてきましたが、職員の得意不得意により具体的活動に差があると全員で反省しました。
- 乳児クラスは担当制・少人数保育を大切にし、子どもがじっくり遊べる環境作りを期毎に改善しました。リーダー会や勉強会を通し、他クラス職員の感想や意見も参考に取り組みました。まだまだ改善は必要ですが、問題意識を持って保育する姿勢が見られるようになりました。
- 朝の「意味ある運動」について幼児一斉に行い場所確保が大変でしたが、時間をずらしたり内容を工夫することにより、運動しやすくなりました。
- 子どもの人権“ワークショップ”を4～5歳児対象に実施しました。保護者の方から資料が欲しいと要望があり関心の高さに驚きました。
- 大田区版「食育ガイドライン」に基づいて保育士・栄養士・調理員・看護師の全職種で共通理解と安全な業務遂行に努め、誤食誤飲なく年度を終える事が出来ました。
- 顔洗いや歯磨きなどについて親の意識がなかなか高まらない現状があるが、年齢に合わせ健康教育を行うことにより、年長児は毎日顔を洗って登園する子も多くなりました。少しずつ改善できるよう今後も継続し健康教育に取り組んでいきます。

## ⑥家庭との連携

- 昨年度より導入した各年齢の「発達チェック表」を個別面談において保護者とやりとりをしてきましたが、保育士の伝え方や理解度に差があり、保護者の意識付けの弱さが見られます。再度伝え方を確認する必要があります。
- お便りに保護者原稿や職員原稿を掲載する予定でしたが、保護者への周知不足のため次年度に見送りました。
- お迎え時間を利用し玄関ホールの絵本コーナーにおいて、親子で絵本を読み過ごす家庭が多くなっています。しかし、保護者同士のおしゃべりの時間ともなり、降園までに時間がかかり、子ども達への注意が行き届かないという問題も発生しています。今後の課題として改善します。
- 0歳クラスの「小児麻痺」児童の療育機関へ保育士・看護師・栄養士が同行し、リハビリの様子を観察したり話を伺い保護者と情報を共有し、リハビリのやり方など確認しながら保育を進めています。そのことにより対象児童の運動発達面の成長を感じています。

## ⑦人材育成

- 主任がリーダーとなり園内勉強会を昼夜あわせて年5回実施しました。昨年度に引き続き保育計画と保育実践の照らし合わせながら、計画作成のポイントを学びました。昨年よりは理解が進み保育の計画と実践に反映されている保育士が多くなっています。また、保育指針改定のポイントと「幼児期の終わりまでに育てたい10項目」も実践と繋げて学んでいるところで

- 保護者支援及び要支援児対応など難しいケース対応について、昨年に引き外部講師依頼による研修を2回実施しました。現場で対応に苦慮しているケースについて、みんなで考え意見を出し合うことを積み重ねる事で、情報交換やお互いの大変さを理解し全体の協力体制がスムーズになりました。
- 大田区主催の研修（保育サービス課主査：28回、幼教センター主催：13回、東社協主催9回、その他、6回、外部での研修に参加しました。
- 働きやすい職場と新人育成のため経験2～3年の保育士による服務や保育の基本姿勢についてサポートしてきました。支援する側にとって職務見直しの良い機会となって様です。
- 「子どもの人権尊重と最善の利益」を最優先した子ども対応をめざしていますが、どうしても子どもの呼び捨てや大きな声が聞かれることも多く感じています。職員一人ひとりの意識化が重要です。今後も引き続き啓発と個別指導を要します。

#### ⑧地域の実態に対応した事業

##### 地域子育て支援事業

- 地域の子育て中の親子を対象に月1回のペースで子育て支援活動「はまっこクラブ」を7回開催し延べ33組の親子が参加しました。季節の飾り制作・リズム遊びやふれ合い遊び・感触遊びを行い大変好評でした。夏の水遊びは、予定日の天候が悪く実施できませんでした。
- 近隣のお年寄り保育園の給食にお招きする予定でしたが、お声をかけても日程が合わなかったり、予定のある方が多く29年度は単発で2回4人のみの参加となりました。広報の仕方を検討します。
- 看護師によるベビーマッサージは1回のみとなりました。栄養士・調理師による「離乳食作り」は施設見学合わせ実施したところ大好評でした。2回実施、12人参加。
- 子育て支援連絡会（年2回）や地域関係者会議（年2回）に参加し近隣園の情報を得ることは出来ましたが、活動への参加（保健所での乳児健診事業）は出来ませんでした。

##### 幼保小中との連携事業

- 東糀谷保育園年長クラスと4回交流をしました。東糀谷の担任にリードされながらも年長担任として積極性に関わる事が出来ました。最後は浜竹保育園より声をかけ、近隣公園で一緒にゲームを楽しむ事が出来ました。
- 近隣小学校1校（萩中小学校1年生全員・5年生1クラス）と交流しました。特に2月に小学校へ年長児が訪問し、1年生に手助けされながら、授業体験をしました。（音楽・体育・国語・算数）それ以降就学への期待が大きく膨らみお手紙ごっこなど意欲的な遊びが展開しました。
- 次世代育成として地域の中学校3校（糀谷中学校・いずも中学校・羽田中学校）の体験学習や職業体験・ボランティアを受け入れています。体験学習・職業体験として3日間、2年生が各校5人が乳幼児と関わりました。特に職業体験として参加したいずも中学の学生は、子ども達と積極的に関わっていました。体験後の記録に書かれている感想や保育に対するとらえ方に私達の方が感動しました。

#### ⑨苦情処理

- 保護者様から大きな苦情はありませんでしたが、子どもの処置などに対する質問や意見は特定の保護者から何度か寄せられました。その都度丁寧に説明する事で今のところ理解を頂いています。

運動会前より年長クラス保護者間でトラブルがあり、いろいろな保護者から意見を求められることが多くありました。保育園の立場を明確に伝えると共に子どもの気持ちを最優先して対応して頂けるようお願いしてきました。何とか穏便に卒園を迎える事が出来ました。

#### ⑩リスクマネジメント

- 年度初めに全職員でサービス規定や危機管理マニュアル（安全保育含む）の読み合わせをし、確認、をしました。しかし、ベテラン保育士の保護者対応が不適切であり、本人とヒヤリングを重ねました。子どもの人権について4～5歳クラス全員ワークショップに参加しました。併せて職員も10人参加し「人権」について学びました。
- 危機管理対策メンバーを選出し看護師をリーダーに災害や防犯・日々の怪我防止（ヒヤリハット・午睡チェック表・誤飲）等、について意見を出し合いました。昨年度より職員の意識が高まり怪我報告書やヒヤリーハット記録も残し振り返る機会が多くなりましたが、最後の検証作業までには至っていません。
- 災害訓練として職員だけの訓練実施が大切ということで、29年度はまず「さらし帯を使用しておんぶの仕方の実践訓練を行いました。それ以降避難訓練時に交替で子どもをさらしでおんぶし避難しています。他、心肺蘇生法や救急対応（骨折など）」も看護師を指導者に職員会で実施しました。

#### ⑪その他

- ・4月に砂場の移設と滑り台を撤去しました。空間が広がり動きやすくなりました。
- ・28年度急遽大田区の指示により、0歳児保育室にクッションシートを貼りましたが、1・2歳児室は予算の関係で30年度になるそうです。